

7 会議結果の概要	<p>議事 (1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長指名、副委員長選出 <p>議事 (2) ～ (4) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1～No.3－5及び事前配付資料に基づき説明 ・質問・意見等は下記のとおり <p>議事 (5) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局の説明後、4グループに分かれ、グループワークを行い、その概要をグループごとに発表
8 会議の内容	
事務局	1 開会
事務局	2 委嘱状交付
部長	3 あいさつ
委員	4 委員自己紹介
アドバイザー	5 アドバイザー自己紹介
	6 議事
事務局	<p>議事 (1) 委員長指名、副委員長選出について、当日配付資料No.1「長岡市子ども・子育て会議条例」の第5条第1項により、渡辺美子委員を委員長に指名した。</p>
委員長	<p>同条例第5条第3項により、委員長は山川千恵子委員を副委員長に指名した。</p>
委員長	<p>議事 (2) 令和6年度長岡市子ども・子育て会議についてと議事 (3) 令和5年度子育て支援施策の実施状況について、事務局の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>当日資料No.2及び事前配付資料No.1－2に基づき説明</p> <p>(意見・質問等なし)</p>
委員長	<p>議事 (4) 長岡市こども計画 (仮称) について、事務局の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事前配付資料No.3－1及び当日資料No.3－1～No.3－5に基づ</p>

	き説明
委員	高校生や若者への意見聴取はどのように行うのか。
事務局	高校生は昨年度実施したニーズ調査を通して意見を聴いておりますが、対面での意見聴取については今後検討していきたい。
委員長	ながおか・若者・しごと機構でも意識調査を実施しているが、連携しているのか。
事務局	ながおか・若者・しごと機構とは、調査項目の内容などについて、連携しながら実施しているところです。
委員長	こども計画の対象の年齢が 39 歳までというのは明記しないと分かりづらいと思うが、サブタイトルを付けたりするのか。
事務局	こども大綱において、「こども」は心身の発達の過程にある者として定義されていますが、若者については年齢的な定義は示されていないため、長岡市のこども計画における若者の年齢を定義するかしないかも含めて、今後整理していきたい。
委員長	児童クラブでの意見聴取について、利用しているのは共働き家庭などの 1～3 年生と限られているが、そこに絞って意見を聴くことが目的なのか。それとも、いろいろな状況のこどもに意見聴取することが目的なのか。
事務局	夏休みに実施する児童クラブでの意見聴取については、児童クラブを利用している限られたお子さんを対象にしています。 一方で、小中学生を対象にしたアンケートを通じて呼びかけ、意見を述べる場に参加してみたい児童・生徒を募り、意見を集めたいとも考えており、例えば、ミライエの 1 室に集まってもらい、意見を聴くことも検討しています。
委員長	かがやき塾もあるので、すでにあるものや他課とも連携してもいいと思う。
部長	資料に掲載しているものは、狭い範囲で現時点で実施しようと決

<p>委員長</p>	<p>めているものですが、もっとたくさんの意見を聴取する必要があると認識しておりますので、いろんな機会をとらえて、これ以上のことはやりたいと思っています。</p> <p>委員の中には、子ども会連絡協議会の方もいるので、連携しながらやっていただきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>議事（５）グループワークについて、事務局の説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>グループワークについては、「長岡市こども計画（仮称）」を策定するにあたり、「大切にしたい視点」や「盛り込みたい要素」について、ご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>その際、当日配付資料No.3－4の、現計画の「計画策定にあたっての基本的視点」、「基本目標」、「基本施策」が記載されていますので、これらをベースに修正していただいても結構ですし、新たな視点として、こういう視点が大切ではないかというご意見でも結構です。また、具体的にこういう取組みが必要ではないかという提案でも構いません。皆様から幅広くご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p> <p>（グループワーク後、グループごとに発表）</p>
<p>委員</p>	<p>【Aグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの様々な居場所づくりや長岡に帰ってきたいなと思えるようなまちづくりについて、多世代や地域との交流が、そういう思いにさせていると思う。 ・ 現実には、長岡に帰って来る子どもたちが非常に少ないという実態もある中で、どうやったら長岡を好きになって、また戻ってくるんだろうという少子化を解消する視点も必要。 ・ 例えば、企業や職場環境で、本来であれば、「こどもができた。」「結婚した。」というときに喜ばれるはずだった時代から、今では、「男性が育休を取るのか。」という現実が企業内あるいは職場内でもまだ多いんじゃないかなと思いますので、そういうムードを変えていかなければいけない、オール長岡でみんなで支えていくんだというムードを作っていかなければいけない。 ・ 出会いがないと子育てもできないし、出会いの場も必要。

<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いの前に未来をしっかりとイメージできる、そういう世代ごとの教育も必要。 ・児童クラブや児童館でこどもを預かったりする様々な環境、その多様なニーズに答えるような、そういう環境整備も必要。 ・行政の予算は限られて難しいかもしれないが、今、長岡市で必要なニーズに応じた財政的な支援もこれを機会に行政に要望していただきたい。 <p>【Bグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子のコミュニケーションの取り方の問題がある。 ・親自身がこどもとコミュニケーションを取りたいがどういうことをすればいいのか、どこかに行けばこどもと一緒に活動できるのかという情報を持っていない方がいる。例えば、丘陵公園が無料になると、たくさんの親子が来るので、施設の無料化イベントの情報提供をして、親子で行って楽しい活動をしてもらうことでもいい。 ・親が子育てに無関心ということもあるので、そういうことが防げるような活動した方がいい。 ・一方で、こどもの問題で、例えばタブレットを小さい頃から持たせると、こどもは楽しいが、親と話ができないような状況もある。例えば、時間制限を設けるとか、小さい頃は持たせないということも必要ではないか。 ・こどもの体験については、子ども会連絡協議会でもいろいろ活動している。参加してくれるこどもたちは、楽しい経験をして、仲間もできて、コミュニケーションも取れるというようになるので、そういう活動にたくさん参加してもらえばいい。 ・保育士の資格は、保育士と幼稚園教諭の2種類があって、費用負担が大きいという、2種類を取るのが大変だから、人によっては保育士だけしか取らないために、こども園では仕事ができないということもあるので、資格取得の負担軽減なども必要になってくるかもしれない。 ・幼稚園・保育園から小学校に上がったときに、それまで問題なかった子が小学校に入ったときに具合が悪くなるということもあるので、幼保小の連携が大事。 <p>【Cグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードは、ゆとり。親にも子供にも気持ち・時間・経済的
<p>委員</p>	

<p>委員</p>	<p>な余裕がないと、いろんなことが大変なので、余裕はほしい。そこには、働き方や子育てしやすい職場の協力も大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大事なのが居場所。社会の中で自分の居場所があると、こどもが思えるというのが大事。放課後児童クラブを高学年が利用しやすいようにするなど。どの世代になっても、こどもたち、大人にとっても居場所が確保できるということが大切。 ・そのためには、安心感が土台に必要。こどもから若者に成長していく中で、自己肯定感や生きる楽しさを持てるように、安心感ということが大事。 ・気持ち的に厳しくなり、なかなか外に相談に出れないという親御さんにも「ここなら大丈夫だよ。」というところに繋げてあげて、安心して子育てができる環境にすることが大事。 ・若者が長岡に戻って来ないという話もあったが、大人になって地元で生活するイメージを作れるようにすることも大事。大人が楽しそうに暮らしている、仕事をしている、子育てをしているというイメージがあれば、自分たちもそうなりたい、ここにいたいと思ってくれる。そういうイメージづくりという意味でも、モデルケースも含めて、身近にいる大人が楽しそうに暮らしているということが大事。 ・繋がりというところで、身近なところでの相談相手、繋がりを持てるというのがすごく大事。小さい地域の繋がりもありますし、逆に地域が近すぎて相談がしにくいという方にとっては、広いエリアでの相談先や、同じようなお子さんを持った方との親同士やこども同士の繋がりということで、当事者以外にも巻き込みながら、いろんな方に支援をいただきながら繋がりを作ってあげることが大切。 ・経済的な厳しさも言われているが、受けたい教育を受ける権利、お金のことを心配しないで、安心して高等教育を受けられるということは、大事。自分のご家庭の責任ではなくて、社会全体で受けたい教育をこどもたちが受けていける、それで生き生きと、いろんな力をつけて、長岡で生活してもらえるといるところに繋げていけるといい。 <p>【Dグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会いということで、結婚に向けて安心して参加できるマッチングアプリや、結婚に向けたおせっかい役さんが大切。 ・働き方では、いきなりハローワークに行くことにハードルの高
-----------	---

<p>アドバイザー</p>	<p>さを感じる方もいるので、ハローワークの前にワンクッションあるといい。こどもを産んで仕事を一旦辞めた後の再就職の応援があると、子育てしながら働きやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や町内には、お年寄りもたくさん暮らしていますので、長期の休みに お年寄りが子育て支援ができるような体制が整うと、児童館を利用しなくても済むようなお子さんもいる。 ・地域が充実して、こどもが地域で集まって相談したり、おやつを一緒に食べたりするような場所もできていくといい。 ・子育てについてはいろいろと補助が出てますけども、同居している家族への補助があると、今は核家族が多いですが、同居しようかなという人たちも増えてくるかもしれない。 ・引きこもりの若者への支援や、長岡市でもいろいろな取組みをしているので、その情報を対象者に発信することも大切。 ・相談支援ということで、長岡版ネウボラは、出産から育児まで切れ目ない支援と言っているが、例えば中学校卒業して高校に行かないこどもたちへの支援が切れたりするので、0歳から高校生までなどの本当に長い支援があってもいい。 <p>7 その他 アドバイザーからのまとめ</p> <p>今回のこども計画の策定は、大きな方向転換であることを認識していただきたい。今までは子育て支援が中心でしたが、今回はこどもが権利の主体であることを明確にした計画を作ってくださいということです。</p> <p>長岡市の現計画では、基本理念の中に「育つ喜び」という言葉が入ってるのがすごくいいと思っている。この「育つ喜び」というのは、こども自身が、自分たちが大事にされているとか、自分たちが権利の主体として長岡市で生きていく、暮らしていくということが喜びになるということにも繋がっていくかと思しますので、そこを今回の計画の中で位置付けていただきたい。</p> <p>これは事務局への話になるかと思いますが、今回の計画の第2部の第1章のライフステージを通した重要事項の最初の「こども・若者が権利の主体であることの社会全体での共通等」は、ここでもいいですが、全体のところに見える形にしてもいいのかなと思いました。</p> <p>こどもたちの声を聴くということも今回の計画策定の中では大事な項目である。長岡市でも意見聴取の計画があったが、本気で聴こうと思ったら、半年では無理である。対象者の年齢に幅もあるし、</p>
---------------	--

事務局	<p>障害のあるお子さんの声や、ひとり親など、様々な状況の方の声をどうやって聴いていくかということになる。</p> <p>今回の計画の策定の中では、まずはこどもの声を聴いていきたいと思いますというところからスタートし、5年間かけて、長岡市のいろんな子どもたちの声を聴いていく中で、このこども計画の第1期が終わったところで、いろんな子どもたちの声が集まってきたよねというイメージで進めればいいのかなどというふうに思います。</p> <p>また、施策的にこどもの声を聴くというのが始まっているので、子どもたちにはいろんなアンケートがきています。早急に実施して、子どもたちに「また」と思われるよりは、丁寧に進めていただければと思います</p> <p>一方で、子どもたちも大人に言いたいことがあって、話を聞いてほしいと思っている。意見聴取の場を設定するだけでなく、日常の中で、子どもたちの声を聴くことを大事にしてほしい。日頃から大人は話を聴いてくれる存在なんだなという前提があると、安心して意見を伝えることができるようになる。</p> <p>今回の計画では、少子化対策、子ども・若者、子どもの貧困対策を盛り込んだ計画となる。その際、昨年12月に閣議決定された「はじめの100か月の育ちビジョン」と「こどもの居場所づくりに関する指針」も意識してほしい。</p> <p>妊娠期からの学校に入るまでの100か月の質をどう担保していくかということが非常に課題になってきている。あわせて、地域の中でこどもの居場所をどう確保するかが大事な観点となる。</p> <p>働き方については、長岡市の調査でも課題が見えてきた。一方、夕方4時から夜の9時や10時までは仕事を入れない時間帯にしようという動きが出てきている。子どもが学校から帰ってきて寝るまでの時間、ここを空けるべきではないかという話も出てきています。このように、ライフの中にワークがあるという考え方に発想を変えることで、私たちの生活の豊さにつながるという考え方も示されているので、そういった観点からも一緒に考えていただければと思います。</p>
9 会議資料	8 閉会 別添のとおり